

# 令和 2 年度 東京都登録販売者試験 問 題 ( 午 後 )

◎ 指示があるまで開いてはいけません。

## 注 意 事 項

- 1 試験問題の数は 60 問で、午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分までの 120 分以内で解答してください。
- 2 解答用紙は、試験問題とは別に配布します。  
解答用紙には、必ず氏名と受験番号を記入し、また、受験番号に該当する数字を塗りつぶしてください。  
試験終了後は、解答用紙のみ提出してください。
- 3 解答方法は次のとおりです。  
(1) 解答用紙の該当箇所の数字を HB の鉛筆 (シャープペンシルでも可) で塗りつぶしてください。  
設問に対する解答は、1 設問に対して一つです。複数箇所を塗りつぶした場合は、解答したことにはなりません。

### 解 答 例

問 110 炭素の元素記号として、正しいものはどれか。

1 A            2 B            3 C            4 D            5 E

正しい答えは「3」であるから、**3** を塗りつぶして、

問 110	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input checked="" type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
-------	-------------------------	-------------------------	------------------------------------	-------------------------	-------------------------

とすればよい。

マークの仕方

良い例



悪い例




細い

短い

うすい

はみでる

- (2) 解答を修正した場合は、消しゴムであとが残らないように完全に消してください。  
鉛筆のあとが残ったり、 のような消し方をした場合は、修正又は解答したことにはならないので注意してください。
- (3) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないよう、注意してください。

- 4 (1) 試験問題は、成分名の表記を含め、厚生労働省が定める「試験問題の作成に関する手引き (平成 30 年 3 月)」に基づいて作成しています。

**問 61 から 問 100 ( 1 ページから 21 ページまで) 主な医薬品とその作用**

**問 101 から 問 120 ( 22 ページから 32 ページまで) 医薬品の適正使用と安全対策**

- (2) 設問中の科学用語、成分名、人名、学名などの表記そのものには誤りはないものとして解答してください。
- (3) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」について、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記しています。

- 5 試験問題の内容については、質問を受け付けません。

## 主な医薬品とその作用

問 6 1 かぜ及びかぜ薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a かぜであるからといって必ずしもかぜ薬（総合感冒薬）を選択するのが最適とは限らず、発熱、咳など症状がはっきりしている場合には、効果的に症状の緩和を図るため、解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬などを選択することが望ましい。
- b 急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき、又は症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。
- c 香蘇散は、体力中等度又はやや虚弱で、多くは腹痛を伴い、ときに微熱・寒気・頭痛・吐きけなどのあるものの胃腸炎、かぜの中期から後期の症状に適すとされる。
- d 麻黄湯は、体力充実して、かぜのひきはじめて、寒気がして発熱、頭痛があり、咳が出て身体がふしぶしが痛く汗が出ていないものの感冒、鼻かぜ、気管支炎、鼻づまりに適すとされる。

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |

問 6 2 かぜ薬の配合成分とその配合目的の組合せのうち、正しいものの組合せはどれか。

- |   | 配合成分        | 配合目的   |
|---|-------------|--------|
| a | ブロムヘキシン塩酸塩  | 解熱鎮痛   |
| b | ヨウ化イソプロパミド  | 抗コリン   |
| c | クロペラスチン塩酸塩  | 去痰     |
| d | クレマスチンフマル酸塩 | 抗ヒスタミン |

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問63 解熱鎮痛薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ピリン系の解熱鎮痛成分として、アスピリンやサザピリンがある。
- b アスピリンを含む一般用医薬品の解熱鎮痛薬は、インフルエンザにかかっている15歳未満の小児の解熱に対して使用が推奨されている。
- c 生薬成分のジリュウは、ツヅラフジ科のオオツヅラフジの蔓性<sup>つる</sup>の茎及び根茎を、横切したものを基原とするもので、鎮痛、尿量増加（利尿）等の作用を期待して用いられる。
- d イソプロピルアンチピリンは、解熱及び鎮痛の作用は比較的強いが、抗炎症作用は弱いため、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合される。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

問64 プロスタグランジン及び解熱鎮痛薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a プロスタグランジンはホルモンに似た働きをする物質で、体の各部位で発生した痛みが脳へ伝わる際に、そのシグナルを増幅することで痛み<sup>さ</sup>の感覚を強めている。
- b 末梢におけるプロスタグランジンの産生抑制は、循環血液量と腎血流量を増加させる。
- c 解熱鎮痛薬は、頭痛の症状が現れないうちに予防的に使用することが適切である。
- d 解熱鎮痛薬の坐薬と<sup>さ</sup>かぜ薬の内服薬の併用は、それぞれ吸収する部位が異なるため、影響し合うことはない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

問 6 5 眠気を促す薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a さいこ かりゅうこつ ぼれいとう 柴胡加竜骨牡蛎湯は、体力中等度以下で、心身が疲れ、血色が悪く、ときに熱感を伴うものの貧血、不眠症、精神不安、神経症に適すとされる。
- b ジフェンヒドラミン塩酸塩は、脳内におけるヒスタミン刺激を高めて、眠気を促す。
- c プロモバレリル尿素を含有する催眠鎮静薬は、胎児に障害を引き起こさないため、妊婦の睡眠障害の緩和に適している。
- d さんそうにんとう 酸棗仁湯は、体力中等度以下で、心身が疲れ、精神不安、不眠などがあるものの不眠症、神経症に適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	正

問 6 6 眠気防止薬の主な有効成分として配合されるカフェインに関する次の記述の正誤のうち、正しい組合せはどれか。

- a 副作用として動悸<sup>き</sup>が現れることがある。
- b 腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進作用があり、尿量の増加をもたらす。
- c 脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感<sup>けん</sup>（だるさ）を抑える効果がある。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	正	正	正

問67 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- b スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、肝臓で代謝されにくいため、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間が長い。
- c ピリドキシン塩酸塩は、吐きけの防止に働くことを期待して配合されている。

- |   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 |

問68 鎮咳去痰薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a グアイフェネシンは、気道粘膜からの粘液分泌を促進し、痰の切れを良くする。
- b ジプロフィリンは、延髄の咳嗽中枢に作用して咳を抑える。
- c メトキシフェナミン塩酸塩は、粘液成分の含量比を調整し痰の切れを良くする。

- |   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 |

問69 鎮咳去痰薬に配合される生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ナンテンジツは、メギ科のシロミナンテン（シロナンテン）又はナンテンの果実を基原とする生薬で、知覚神経・末梢運動神経に作用して咳止めに効果があるとされる。
- b バクモンドウは、ヒメハギ科のイトヒメハギの根を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- c ゴミシは、オオバコ科のオオバコの花期の全草を基原とする生薬で、咳嗽中枢を鎮静させる作用を示す。
- d セキサンは、ヒガンバナ科のヒガンバナ鱗茎を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問70 口腔咽喉薬・うがい薬（含嗽薬）及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ラタニアは、クラメリア科のクラメリア・トリアンドラ及びその同属植物の根を基原とする生薬で、咽頭粘膜をひきしめる（収斂）作用により炎症の寛解を促す効果を期待して用いられる。
- b 駆風解毒湯は、体力に関わらず、喉が腫れて痛む扁桃炎、扁桃周囲炎に適すとされる。
- c トラネキサム酸は、声がれ、喉の荒れ、喉の不快感、喉の痛み又は喉の腫れの症状を鎮めることを目的として用いられる。
- d デカリニウム塩化物は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して配合される。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	正	誤
5	正	正	誤	正

問 7 1 次の表は、ある一般用医薬品の制酸薬に含まれている成分の一覧である。この制酸薬に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

3錠中	
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物（水溶性アズレン）	6 m g
アルジオキサ	1 5 0 m g
水酸化マグネシウム	4 5 0 m g
沈降炭酸カルシウム	9 0 0 m g
合成ヒドロタルサイト	7 8 0 m g
ロートエキス	3 0 m g

- a 胃粘膜保護・修復成分が含まれている。
- b 胃液分泌抑制成分は含まれていない。
- c アルミニウムを含む成分は含まれていない。
- d 心臓病の診断を受けた人は、症状の悪化を招くおそれがある。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (a、d)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 7 2 胃の薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a センブリは、苦味による健胃作用を期待して用いられるほか、日本薬局方収載のセンブリ末<sup>しゃ</sup>は瀉下薬として用いられる。
- b ユウタンは、クマ科のヒグマその他近縁動物の舌を乾燥したものを基原とする生薬で、香りによる健胃作用を期待して用いられる。
- c 人參湯<sup>にんじんとう</sup>は、体力虚弱で、疲れやすくて手足などが冷えやすいものの胃腸虚弱、下痢<sup>おう</sup>、嘔吐、胃痛、腹痛、急・慢性胃炎に適すとされる。
- d 平胃散<sup>へいゐさん</sup>は、体力中等度以下で腹部筋肉が弛緩<sup>し</sup>する傾向にあり、胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけや、げっぷ、食欲不振、吐きけなどを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

問 7 3 腸の薬の配合成分とその作用に関する組合せの正誤について、正しい組合せはどれか。

	配合成分	作用
a	ロペラミド塩酸塩	瀉下 <sup>しゃ</sup>
b	マルツエキス	瀉下 <sup>しゃ</sup>
c	次硝酸ビスマス	止瀉 <sup>しゃ</sup>
d	ヒマシ油	止瀉 <sup>しゃ</sup>

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 7 4 胃腸鎮痛鎮痙<sup>けい</sup>薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ジサイクロミン塩酸塩は、交感神経の伝達物質であるアドレナリンと受容体の反応を妨げることで、胃痛、腹痛を鎮める。
- b パパベリン塩酸塩は、自律神経を介して胃腸の痙攣<sup>けいれん</sup>を鎮める抗コリン成分であり、副作用として眼圧を上昇させる。
- c ブチルスコポラミン臭化物は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じる。
- d アミノ安息香酸エチルは、局所麻酔成分であるため、痛みが感じにくくなることで重大な消化器疾患や状態の悪化等を見過ごすおそれがある。

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (a、d)    4 (b、c)    5 (c、d)



問 7 5 <sup>かん</sup> 浣腸薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a <sup>かん</sup> 浣腸薬は、繰り返し使用しても、直腸の感受性の低下は生じない。
- b ビサコジルは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- c ソルビトールは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。
- d グリセリンが配合された<sup>かん</sup>浣腸薬が、<sup>こう</sup>肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用されると、グリセリンが傷口から血管内に入って、赤血球の破壊を引き起こすおそれがある。

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 | 正 |

問 7 6 心臓などの器官や血液に作用する薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ロクジョウは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用のほか、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- b 強心薬に配合されるジンコウは、鎮静、健胃、強壯などの作用を期待して、小児鎮静薬にも配合される。
- c ゴオウは、ウシ科のウシの<sup>のう</sup>胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- d <sup>りょうけいじゅつかんとう</sup>苓桂朮甘湯は、強心作用が期待される生薬を含み、強心作用と尿量増加（利尿）作用により、水毒（漢方の考え方で、体の水分が停滞したり偏在して、その循環が悪いことを意味する。）の排出を促す。

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

問 7 7 高コレステロール改善薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ポリエノスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- b リノール酸は、末梢組織におけるコレステロールの吸収を抑えることを主な目的として配合される。
- c パンテチンは、低密度リポタンパク質（LDL）の異化排泄<sup>せつ</sup>を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（HDL）産生を高める作用があるとされる。
- d リボフラビン酪酸エステルは、コレステロールからの過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害<sup>しび</sup>（手足の冷え、痺れ）の緩和等を目的として用いられる。

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |

問 7 8 貧血用薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ビタミンB12は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。
- b 硫酸銅は、補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で配合されている場合がある。
- c 鉄製剤服用の前後30分にタンニン酸を含む飲食物（緑茶、紅茶、コーヒー、ワイン、柿等）を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が良くなる。
- d マンガンは、糖質・脂質・タンパク質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。

- 1 (a、c)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 7 9 循環器用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a <sup>しちもつこうかとう</sup>七物降下湯は、体力中等度以上で、のぼせ気味で顔面紅潮し、精神不安、みぞおちのつかえ、便秘傾向などのあるものの高血圧の随伴症状（のぼせ、肩こり、耳なり、頭重、不眠、不安）、鼻血、痔<sup>じ</sup>出血、便秘、更年期障害、血の道症に適すとされる。
- b ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- c 日本薬局方収載のコウカを煎じて服用する製品は、冷え症及び血色不良に用いられる。

- |   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 |

問 8 0 <sup>じ</sup>痔の薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a <sup>じ</sup>内用痔疾用薬に含まれるカイカは、主に止血効果を期待して配合されている。
- b <sup>じ</sup>内用痔疾用薬に含まれるセイヨウトチノミは、主に抗炎症作用を期待して配合されている。
- c <sup>じ</sup>外用痔疾用薬に含まれる卵黄油は、粘膜表面に不溶性の膜を形成することによる、粘膜の保護・止血を目的として配合されている。
- d <sup>きゅうききょうがいたう</sup>芎帰膠艾湯は、体力中等度以上で大便が硬く、便秘傾向のあるものの痔核（<sup>じ</sup>いぼ痔）、<sup>じ</sup>切れ痔、便秘、軽度の脱肛<sup>こう</sup>に適すとされている。

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

問 8 1 外用痔疾用薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ヒドロコルチゾン酢酸エステルは、痔による肛門部の炎症や痒みを和らげることを期待して配合されている。
- b テトラヒドロゾリン塩酸塩は、止血効果を期待して配合されている。
- c アラントインは、痔疾患に伴う局所の感染を防止することを期待して配合されている。
- d クロルヘキシジン塩酸塩は、痔に伴う痛み・痒みを和らげることを期待して配合されている。

1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 8 2 婦人薬とその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a エチニルエストラジオールは、人工的に合成された女性ホルモンの一種であり、妊娠中の女性ホルモンの補充のために用いられる。
- b 五積散は、体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾、打撲症に適すとされる。
- c 胃腸症状に対する効果を期待して、ソウジュツが配合されている場合がある。
- d 鎮静作用を期待して、カノコソウが配合されている場合がある。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 8 3 次の表は、ある一般用医薬品の内服アレルギー用薬に含まれている成分の一覧である。  
この内服アレルギー用薬に関する次の記述について、誤っているものはどれか。

3 カプセル中	
メキタジン	4 m g
プソイドエフェドリン塩酸塩	7 5 m g
d 1 -メチルエフェドリン塩酸塩	6 0 m g
ベラドンナ総アルカロイド	0 . 4 m g
グリチルリチン酸二カリウム	6 0 m g
無水カフェイン	9 0 m g

- 1 ヒスタミンが受容体と反応するのを妨げる。
- 2 副交感神経系の働きを抑える。
- 3 鼻粘膜の血管を収縮させ、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる。
- 4 副作用として不眠や神経過敏が現れることがある。
- 5 セレギリン塩酸塩を服用している場合、体内でのプソイドエフェドリンの代謝が促進されて、作用が減弱するおそれがある。

問 8 4 次の表は、ある一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬に含まれている成分の一覧である。この鼻炎用点鼻薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

1 0 0 m L 中	
クロモグリク酸ナトリウム	1 0 0 0 m g
クロルフェニラミンマレイン酸塩	2 5 0 m g
ナファゾリン塩酸塩	2 5 m g

- a アレルギー性鼻炎のほか、蓄膿症<sup>のう</sup>などの慢性のものも対象となる。
- b 過度に使用すると鼻粘膜の血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- c 副作用として、鼻出血や頭痛が現れることがある。
- d 肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示す。

- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
|   | a | b | c | d |
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 誤 |

問 8 5 眼科用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般的に、点眼薬の1滴の薬液量は、結膜囊<sup>のう</sup>の容積より少ない。
- b 人工涙液は、涙液成分を補うことを目的とするもので、目の疲れやコンタクトレンズ装着時の不快感等には用いられない。
- c 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の治療を目的としているものはない。
- d 洗眼薬は、主に抗菌成分が配合されており、結膜炎（はやり目）やものもらい（麦粒腫）、眼瞼炎（まぶたのただれ）に用いられるものである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	正	正

問 8 6 次の表は、ある一般用医薬品の点眼薬に含まれている成分の一覧である。この点眼薬に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

100 mL 中	
ネオスチグミンメチル硫酸塩	1 mg
イプシロン-アミノカプロン酸	1000 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	10 mg
L-アスパラギン酸カリウム	200 mg
タウリン	1000 mg
コンドロイチン硫酸ナトリウム	100 mg
(コンドロイチン硫酸エステルナトリウム)	

- a アセチルコリンの働きを抑え、目の調節機能を改善する。
- b 炎症の原因となる物質の生成を抑え、目の炎症を改善する。
- c アドレナリン作動成分により血管を収縮させて目の充血を除去する。
- d 結膜や角膜の乾燥を防ぐ。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 8 7 殺菌消毒薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ヨードチンキは、ヨウ素をポリビニルピロリドン（PVP）と呼ばれる担体に結合させて水溶性とし、徐々にヨウ素が遊離して殺菌作用を示すように工夫されたものである。
- b セチルピリジニウム塩化物は、陽性界面活性成分であり、石鹼との混合によって殺菌消毒効果が低下するので、石鹼で洗淨した後に使用する場合には、石鹼を十分に洗い流す必要がある。
- c オキシドールの作用は、過酸化水素の分解によって発生する活性酸素による酸化、及び発生する水素による泡立ちによる物理的な洗淨効果であるため、作用の持続性は乏しいが、組織への浸透性は高い。
- d アクリノールは、一般細菌類の一部（連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿菌）に対する殺菌消毒作用を示し、比較的刺激性が低いため創傷患部にしみにくい。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	正	誤

問 8 8 外皮用薬に配合されている抗炎症成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ステロイド性抗炎症成分は、体の一部分に生じた湿疹、皮膚炎、かぶれ、あせも、虫さされ等の一時的な皮膚症状（ほてり・腫れ・痒み等）の緩和を目的とする。
- b ステロイド性抗炎症成分は、末梢組織（患部局所）における免疫機能を高める作用により、痒みや発赤などの皮膚症状を改善することを目的とする。
- c デキサメタゾン<sup>か</sup>は、分子内に副腎皮質ホルモン（ステロイドホルモン）と共通する化学構造を持たずに抗炎症作用を示す非ステロイド性抗炎症成分である。
- d ケトプロフェンは、医療用医薬品の有効成分であるフェノフィブラート<sup>しん</sup>を含有する脂質異常症用薬（内服）でアレルギー症状を起こしたことがある人に対して、使用を避けることとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

問 8 9 外皮用薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ウフェナマートは、炎症を生じた組織に働いて、細胞膜の安定化、活性酸素の生成抑制などの作用により、抗炎症作用を示すと考えられている。
- b イブプロフェンピコノールは、イブプロフェンの誘導体であり、筋肉痛、関節痛、肩こりに伴う肩の痛み、腰痛に用いられる。
- c テシットデシチンは、局所麻酔成分であり、きり傷、擦り傷等の創傷面の痛みや、湿疹、皮膚炎等による皮膚の痒みを和らげることを目的として配合されている場合がある。
- d ユーカリ油は、皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を拡張させて患部の血行を促す効果を期待して配合されている。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 9 0 角質軟化薬及びにきび用薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ホモスルファミンは、細菌の細胞壁合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
- b クロラムフェニコールは、細菌のタンパク質合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
- c 尿素は、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することを目的として用いられる。
- d バシトラシンは、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)



問9 1 みずむし・たむし用薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ミコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- b テルビナフィン塩酸塩は、菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。
- c シクロピロクスオラミンは、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- d 生薬成分として、モクキンピ（アオイ科のムクゲの幹皮を基原とする生薬）のエキスは、皮膚糸状菌の増殖を抑える作用を期待して用いられる。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (a、d)    4 (b、c)    5 (c、d)

問9 2 歯痛・<sup>のう</sup>歯槽膿漏薬の配合成分とその配合目的の組合せのうち、正しいものの組合せはどれか。

配合成分	配合目的
a 銅クロフィリンナトリウム	—— 歯周組織の修復を促す作用
b ジブカイン塩酸塩	————— 歯周組織の炎症を和らげる作用
c ミルラ	————— 血行を促進する作用
d フェノール	————— 細菌の繁殖を抑える作用

1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問93 禁煙補助剤及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 禁煙補助剤には、1日複数回皮膚に貼付することによりニコチンが皮膚を透過して血中に行するパッチ製剤がある。
- b 咀嚼剤は、口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後、しばらくは使用を避けることとされている。
- c ニコチンは、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を減弱させるおそれがある。
- d ニコチンは、インスリンの血糖降下作用に拮抗して、インスリン製剤の効果を妨げるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問94 滋養強壯保健薬の配合成分とその配合目的の組合せのうち、正しいものの組合せはどれか。

配合成分	配合目的
a ピリドキサルリン酸エステル	— 赤血球の形成を助ける
b フルスルチアミン塩酸塩	——— 脚気の症状の緩和
c グルクロノラクトン	————— 乳酸の分解を促す
d トコフェロール酢酸エステル	——— 手足の痺れ・冷えの症状の緩和

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問95 次の漢方処方製剤の「適用される症状・体質」と「重篤な副作用」の記述について、正しいものの組合せはどれか。

	漢方処方製剤	適用される症状・体質	重篤な副作用
a	おうれんげどくとう 黄連解毒湯	体力中等度なものの皮膚疾患で、発赤があり、ときに化膿するものの化膿性皮膚疾患・急性皮膚疾患の初期、蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、水虫	肝機能障害、 間質性肺炎、 偽アルドステロン症
b	ぼういおうぎとう 防己黄耆湯	体力が充実して脇腹からみぞおちにかけて苦しく、便秘の傾向があるものの胃炎、常習便秘、高血圧や肥満に伴う肩こり・頭痛・便秘、神経症、肥満症	肝機能障害、 間質性肺炎、 腸間膜静脈硬化症
c	ぼうふうつうしょうさん 防風通聖散	体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症、湿疹・皮膚炎、ふきでもの、肥満症	肝機能障害、 間質性肺炎、 偽アルドステロン症
d	せいじょうぼうふうとう 清上防風湯	体力中等度以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるもののにきび、顔面・頭部の湿疹・皮膚炎、赤鼻（酒さ）	肝機能障害、 偽アルドステロン症

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問96 生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a カッコンは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮<sup>けい</sup>瘧の作用を期待して用いられる。
- b サイコは、キンポウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬で、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を期待して用いられる。
- c サイシンは、ウマノスズクサ科のウスバサイシン又はケイリンサイシンの地上部を基原とする生薬で、健胃、消化促進の作用を期待して用いられる。
- d ブクリョウは、サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静の作用を期待して用いられる。

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |

問97 生薬成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a オウゴン<sup>じ</sup>は、シソ科のコガネバナの周皮を除いた根を基原とする生薬で、内用痔疾用薬では主に抗炎症作用を期待して用いられる。
- b ケイガイは、モクレン科のタムシバ等の<sup>つぼみ</sup>蕾を基原とする生薬で、アレルギー用薬では鎮静、鎮痛の作用を期待して用いられる。
- c サンキライは、アケビ科のアケビ又はミツバアケビの<sup>つる</sup>蔓性の茎を、通例、横切りしたものを基原とする生薬で、泌尿器用薬では尿量増加（利尿）を期待して用いられる。
- d サンシシは、アカネ科のクチナシの果実を基原とする生薬で、歯痛薬では抗炎症作用を期待して用いられる。

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (a、d)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 9 8 消毒薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a イソプロパノールは、粘膜刺激性があり、粘膜面や目の回り、傷がある部分への使用は避けることとされている。
- b 次亜塩素酸ナトリウムは、吐瀉物や血液等が床等にこぼれたときの殺菌消毒にも適しており、有機物の影響を受けないので、殺菌消毒の対象物をあらかじめ洗浄する必要はない。
- c サラシ粉は、強い還元力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示す。
- d アルカリ性の消毒薬が誤って皮膚に付着した際は、症状をすみやかに軽減するため、中和剤を使用するのが効果的である。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	正	正
5	正	誤	正	誤

問 9 9 殺虫剤の配合成分とその分類の組合せのうち、正しいものの組合せはどれか。

	配合成分		分類
a	オルトジクロロベンゼン	——	オキサジアゾール系
b	フェノトリン	—————	有機リン系
c	プロポクスル	—————	カーバメイト系
d	フタルスリン	—————	ピレスロイド系

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 1 0 0 妊娠検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、通常、実際に妊娠が成立してから4日目前後の尿中のhCG濃度を検出感度としている。
- b 尿中hCGの検出反応は、hCGと特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応である。
- c 経口避妊薬や更年期障害治療薬などのホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくても、検査結果が陽性となることがある。

- |   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 正 | 正 |

## 医薬品の適正使用と安全対策

問101 一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の添付文書に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 添付文書は必要に応じて随時改訂がなされ、重要な内容が変更された場合には、改訂年月を記載するとともに、改訂された箇所を明示することとされている。
- 2 添付文書の販売名の上部に、「使用にあたって、この説明文書を必ず読むこと。また、必要などきに読めるよう大切に保存すること。」等の文言が記載されている。
- 3 医薬品の適正使用情報の記載は、一般の生活者に理解しやすい平易な表現でなされているが、その内容は一般的・網羅的なものとならざるをえない。
- 4 消費者相談窓口として、製造販売元の製薬企業において購入者等からの相談に応じるための窓口担当部門の名称、電話番号、受付時間等が記載されている。
- 5 薬効名は、その医薬品の薬効又は性質が簡潔な分かりやすい表現で示されたものであり、販売名に薬効名が含まれているような場合でも、薬効名は必ず記載しなければならない。

問102 一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の添付文書の「使用上の注意」に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」の各項目の見出しには、それぞれ統一された標識的マークが付されている。
- b 「してはいけないこと」の項目には、その医薬品を使用（服用）するにあたり、守らないと症状が悪化する事項、副作用又は事故等が起こりやすくなる事項について記載されている。
- c 小児が使用した場合に特異的な有害作用のおそれがある成分を含有する医薬品では、通常、「相談すること」の項目に「15歳未満の小児」等として記載されている。
- d 「その他の注意」の項目には、容認される軽微な症状について、「次の症状が現れることがある」として記載されている。

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

問103 一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の製品の表示に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、容器や包装にも保管に関する注意事項が記載されている。
- b 適切な保存条件の下で製造後2年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品には、使用期限の表示の義務はない。
- c 外箱には医薬品医療機器等法の規定による法定表示事項のみが記載され、他の法令に基づく製品表示がなされることはない。
- d 1回服用量中0.1mLを超えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壯を目的とするもの）については、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問104 次の医薬品成分等のうち、一般用医薬品の添付文書等において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に「本剤又は本剤の成分、牛乳によるアレルギー症状を起したことがある人」と記載することとされている成分はどれか。

- 1 リゾチーム塩酸塩
- 2 カゼイン
- 3 オキセサゼイン
- 4 ヒアルロン酸ナトリウム
- 5 ケイ酸アルミン酸マグネシウム



問105 次の医薬品成分を含有する内服の胃腸薬である一般用医薬品の添付文書等において、長期間服用した場合に、アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を発症したとの報告があるため、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に「次の診断を受けた人」として「透析療法を受けている人」と記載することとされている成分の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a テプレノン
- b スクラルファート（スクラルファート水和物）
- c タンニン酸アルブミン

- |   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 |

問106 一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」と記載することとされている主な成分・薬効群とその理由の組合せの正誤について、正しい組合せはどれか。

- |   | 主な成分・薬効群           | 理由                 |
|---|--------------------|--------------------|
| a | イブプロフェンが配合された解熱鎮痛薬 | 乳児に頻脈を起こすおそれがあるため  |
| b | ロートエキスが配合された内服薬    | 乳児に下痢を起こすおそれがあるため  |
| c | テオフィリンが配合された鎮咳去痰薬  | 乳児に神経過敏を起こすことがあるため |
| d | センノシドが配合された内服薬     | 乳児に昏睡を起こすおそれがあるため  |

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |

問107 次の医薬品成分等と、一般用医薬品の添付文書等において、「相談すること」の項目中に「次の診断を受けた人」として記載することとされている基礎疾患等の組合せの正誤について、正しい組合せはどれか。

	医薬品成分等	基礎疾患等
a	マオウ	貧血
b	アセトアミノフェン	胃・十二指腸潰瘍
c	メチルエフェドリン塩酸塩	糖尿病

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	正	正

問108 次の医薬品成分等のうち、内服用の一般用医薬品の添付文書等において、目のかすみや異常なまぶしさを生じることがあるため、「してはいけないこと」の項目中に「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」と記載することとされている成分等はどれか。

- 1 しゃくやくかんぞうとう 芍薬甘草湯
- 2 ピレンゼピン塩酸塩水和物
- 3 ダイオウ
- 4 合成ヒドロタルサイト
- 5 無水カフェイン

問 1 0 9 次の一般用医薬品の漢方処方製剤のうち、その添付文書等において、排尿筋の弛緩と括約筋の収縮が起こり、尿の貯留を来すおそれがあり、特に前立腺肥大症を伴っている場合には、尿閉を引き起こすおそれがあるため、「相談すること」の項目中に「次の症状がある人」として「排尿困難」と記載することとされているものはどれか。

- 1 小柴胡湯 しょうさいこうとう
- 2 薏苡仁湯 よくいじんとう
- 3 桂枝湯 けいしとう
- 4 麦門冬湯 ばくもんどうとう
- 5 十味敗毒湯 じゅうみはいどくとう

問 1 1 0 次の医薬品成分を含有する一般用医薬品である制酸薬の添付文書等において、「相談すること」の項目中に「次の診断を受けた人」として記載することとされている基礎疾患等はどれか。

3包中	
銅クロロフィリンカリウム	1 2 0 m g
無水リン酸水素カルシウム	1 0 2 0 m g
沈降炭酸カルシウム	1 0 2 0 m g
水酸化マグネシウム	9 6 0 m g
ロートエキス	3 0 m g

- 1 糖尿病
- 2 緑内障
- 3 肝臓病
- 4 高血圧
- 5 貧血

問 1 1 1 緊急安全性情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品、医療機器又は再生医療等製品について緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に作成される。
- b 厚生労働省からの命令、指示に基づいて作成されるため、製造販売業者の自主決定に基づいて作成されることはない。
- c A4サイズの青色地の印刷物で、ブルーレターとも呼ばれる。

- |   | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 |

問 1 1 2 医薬品の副作用情報等の収集に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度は、都道府県が全ての医薬関係者から副作用報告を受ける「医薬品安全性情報報告制度」としてスタートした。
- b 既存の医薬品と明らかに異なる有効成分が配合された医薬品については、10年を超えない範囲で厚生労働大臣が承認時に定める一定期間、再審査制度が適用される。
- c 製造販売業者には、医療用医薬品で使用されていた有効成分を一般用医薬品で初めて配合したものについては、承認後一律で5年間、安全性に関する調査及び調査結果の国への報告が求められている。
- d 製造販売業者には、医薬品等との関連が否定できない感染症に関する症例情報の報告や研究論文等について、国への報告義務が課されている。

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (a、d)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 1 1 3 医薬品の副作用情報等の評価及び措置に関する次の記述について、( ) の中に  
入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

収集された副作用等の情報は、その医薬品の製造販売業者等において評価・検討され、必要な  
安全対策が図られる。各制度により集められた副作用情報については、( a ) において専門  
委員の意見を聴きながら調査検討が行われ、その結果に基づき、( b ) は、( c ) の意見  
を聴いて、安全対策上必要な行政措置を講じている。

	a	b	c
1	厚生労働省	都道府県知事	消費者委員会
2	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	都道府県知事	薬事・食品衛生審議会
3	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	厚生労働大臣	薬事・食品衛生審議会
4	厚生労働省	厚生労働大臣	消費者委員会
5	厚生労働省	厚生労働大臣	薬事・食品衛生審議会

問 1 1 4 医薬品による副作用等が疑われる場合における登録販売者による報告等に関する次  
の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するためとの趣旨に鑑みて、医薬品等によるものと  
疑われる、身体の変調・不調、日常生活に支障を来す程度の健康被害（死亡を含む。）につい  
て報告が求められている。
- b 医薬品の副作用は、使用上の注意に記載されているものだけとは限らないため、登録販売者  
においては、購入者等からの訴えに素直に耳を傾け、真摯な対応がなされることが重要である。
- c 認められた健康被害と医薬品との因果関係が必ずしも明確でない場合であっても、報告の対  
象となり得る。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	誤	正
3	正	正	誤
4	誤	正	誤
5	正	正	正

問 1 1 5 医薬品医療機器等法第 6 8 条の 1 0 第 2 項の規定に基づき医薬関係者に義務付けられている医薬品の副作用等の報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 報告様式は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページから入手できるほか、関係機関・関係団体の協力の下、医学・薬学関係の専門誌等にも掲載されている。
- b 報告様式の記入欄すべてに記入がなされる必要がある。
- c 複数の専門家が医薬品の販売等に携わっている場合は、当該薬局又は医薬品の販売業において販売等された医薬品の副作用等によると疑われる健康被害の情報に直接接した専門家 1 名から報告書が提出されれば十分である。
- d 報告者に対しては、安全性情報受領確認書が交付される。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 1 1 6 医薬品副作用被害救済制度の給付に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 医療手当は、請求に係る医療が行われた日の属する月の翌月の初日から 5 年以内に請求を行う必要がある。
- b 障害児養育年金は、医薬品の副作用により一定程度の障害の状態にある 2 0 歳未満の人を養育する人に対して給付されるものである。
- c 遺族年金の給付は、請求期限がある。
- d 葬祭料の給付は、請求期限がない。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (a、d)    4 (b、d)    5 (c、d)

問 1 1 7 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 副作用による疾病のため、入院治療が必要と認められるが、やむをえず自宅療養を行った場合についても給付対象となる。
- b 医薬品を適正に使用して生じた健康被害であれば、特に医療機関での治療を要せずに寛解したような軽度のものについても給付対象となる。
- c 診察した医師が、独立行政法人医薬品医療機器総合機構に対して給付請求を行うこととされている。
- d 救済給付業務に必要な費用のうち、給付費については、製造販売業者から年度ごとに納付される拠出金が充てられるほか、事務費については、その2分の1相当額は国庫補助により賄われている。

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (a、d)    4 (b、c)    5 (c、d)

問 1 1 8 医薬品 PLセンターに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 消費者が製造販売元の企業と交渉するに当たって、消費者側の立場に立って交渉の仲介や調整・あっせんを行う。
- b 医薬品、医薬部外品及び化粧品に関する苦情の相談を受け付けている。
- c 平成7年7月の製造物責任法の施行に伴い、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が開設した。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	誤	正	誤
3	正	正	正
4	正	誤	正
5	誤	誤	誤

問 1 1 9 一般用医薬品の安全対策に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例が報告されたことから、厚生労働省は、一般用かぜ薬全般について使用上の注意の改訂を指示した。
- b 塩酸フェニルプロパノールアミンが配合された一般用医薬品による偽アルドステロン症等の副作用症例が複数報告され、厚生労働省から関係製薬企業等に対して、代替成分としてプソイドエフェドリン塩酸塩等への切替えが指示された。
- c 慢性肝炎患者が小柴胡湯しょうさいこうとうを使用して間質性肺炎が発症し、死亡例はなかったものの重篤な転帰に至った例もあったことから、厚生省（当時）より関係製薬企業に対して緊急安全性情報の配布が指示された。
- d 解熱鎮痛成分としてアミノピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用で死亡事例が発生し、厚生省（当時）より関係製薬企業に対し、製品の回収が要請された。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤



問 1 2 0 医薬品の適正使用及びその啓発活動に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚醒剤、大麻等）<sup>せい</sup>によってのみ生じるものであり、一般用医薬品では生じることはない。
- b 薬物乱用は、乱用者自身の健康を害するだけでなく、社会的な弊害を生じるおそれ大きい。
- c 保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年10月17日～23日の1週間を「薬と健康の週間」として、国、自治体、関係団体等による広報活動やイベント等が実施されている。
- d 「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」を広く普及し、薬物乱用防止を一層推進するため、毎年6月20日～7月19日までの1ヶ月間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正